

2022年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月4日 文学部 史学科

問2

ソ連がヤルタ協定に基づき、日ソ中立条約を無視して突然日本に宣戦、朝鮮・満州とともに樺太へ侵攻した。混乱状態のなか、戦後の集団引き揚げでも帰国できない人がいた。

問3

ア イ 又

問4 選択した問い番号 (1)

1274年の文永の役では、フビライが服属を拒否した日本へ侵攻、元軍・高麗軍約3万人が、対馬・壱岐を襲い博多へ上陸した。日本の武士は火器の威力などに苦戦したが、元軍の内部対立もあって撃退できた。1281年の弘安の役では、元軍は東路軍・元軍に分かれて来襲したが、先着した東路軍は石塁のため上陸できず、肥前国鷹島付近で江南軍と合流するも、暴風雨で撤退した。御家人への恩賞は不十分で、得宗の専制化もあり不満が高まった。

問4 選択した問い番号 (2)

モンゴル(元)の遠征は、東アジア・東南アジアの国々の興廃に大きく影響した。まずは、南宋を滅ぼして中国全土を支配し、高麗やチベットを攻めて属国とした。高麗では、三別抄の抵抗がしばらく続いた。また、東南アジアではビルマのパガン朝を滅ぼしたが、ベトナムの陳朝やジャワでは激しい抵抗に退けられ、ジャワではこれを機にマジャパヒト王国が成立した。海上交易に積極的であったため、軍事遠征の終了後も交易は活発に進められた。

問5

図1には、北海道や樺太が描かれておらず、日本列島の向きも不正確で、モンゴルでは、これらの地理が充分把握されていなかったと考えられる。よって、樺太の延長線上に日本があるとは認識できていなかったと推測できる。

問6

北海道や千島、樺太などに居住していたアイヌ民族は、毛皮を中心とする北方交易で周辺諸国から利を得ていた。しかし、蠣崎氏・松前藩を窓口とする交易のなかで、近世に激化した和人の侵入と植民地化により、幾度かの抵抗も空しく勢力を減退させていった。明治維新後は同化政策が採られ、1899年に制定された北海道旧土人保護法を軸に、名目上の保護・農民化を通じ、言葉・生業・習俗など、独自の文化を破壊されていった。